

令和5年度第4回久御山町環境審議会について

- 1 日 時 令和5年10月2日（月）午後2時～3時50分
- 2 場 所 久御山町役場5階 会議室51
- 3 出席者 委 員：8名
事務局：6名
- 4 内 容
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) 久御山町環境基本計画（案）に係る前回の審議内容の振り返り及び最終確認について
 - (2) 答申内容について
 - 4 報告事項
今後の取組等について
 - 5 その他
 - 6 閉 会

<議事要旨>

職務代理者の指名

会長が、職務代理者を指名。

次第3 協議事項

(1) 久御山町環境基本計画（案）に係る前回の審議内容の振り返り及び最終確認について【資料1、2、3】

○説明概要 事務局から説明

(資料2) 第3回久御山町環境審議会における主なご質問・ご指摘事項に基づき、(資料1) 久御山町環境基本計画案の修正ポイントを説明。

(資料3) 第8回計画策定委員会における主なご質問・ご指摘事項に基づき、(資料1) 久御山町環境基本計画案の修正ポイントを説明。

◆主なご意見・質疑応答

(委員)

資料1の49ページの風力発電の特性・課題等における、地図は線上にポテンシャルがあるという事を示しているのか。緑色は何を示しているのか。コメントがあった方が分かりやすいのでは。

⇒(事務局)

破線で囲んでいる部分は、久御山町の町域を表す図となっており、緑色は高速道路を表している。風力についてはポテンシャルがほぼない。

(委員)

資料1の46ページのタイトルに再生可能エネルギー・新エネルギーとあるが、

他では再生可能エネルギー、自然エネルギーと記載されており、経済産業省は以前には違う意味で新エネルギーと使っていたこともあり、記載を統一したらどうか。

⇒（事務局）

統一した記載としたい。

次第4 報告事項

今後の取組等について【資料5】

○説明概要 事務局から説明

（資料5）久御山町環境基本計画に係る今後の取組について説明。

今年度の重点事業として、久御山町環境政策プロモーション業務、久御山町環境基本計画施策推進ワーキンググループの設置、エネルギーマネジメント（地域新電力）会社の設立に向けた検討を実施する。

令和5年度から7年度までの3か年事業として取り組んでいく。

◆主な意見・質疑応答

（委員）

資料5の1ページの下段、事業スケジュールにあるとおり、事業者・農業者ヒアリングは予定通り完了しているのか。

⇒（事務局）

少しスケジュールが遅れており、ヒアリング調査は10月中旬に実施することで調整を始めている。その他のPRロゴ・啓発品作成等は進めているところ。

ワークショップや環境学習は重要であると審議会でもご意見をいただいております。学校と調整を始めている。また、カードゲームの実施については、事業者対象・住民対象としているが、学校と調整できれば総合的な学習の中で、子ども達を対象に実施を振り替える場合もあるのでご了承願う。

（委員）

環境審議会から町長へ答申をした後、環境基本計画はどのような取り扱いになるのか。

⇒（事務局）

本日、計画案をご確認のうえ、答申案をご協議いただき、町長への答申をもって計画の完成を迎える。その後、計画の公表ですが、概要版を作成し町内全戸配布する。周知PRのため、スタートアップシンポジウムを開催し、大々的にPRする。

（委員）

このような計画を策定してもなかなか周知・実行がされないという事も多く、今回のようにプロモーション業務として、すぐにスタートできるのはすごく良いことだと思う。この計画を実現するために重要な取組だと思うので、強化していく方向でやっていってほしい。

しかし、気候危機を含めて、多くが危機的状況にあるので、本来ならばもっとやるべき事はたくさんある。人員等の限界もあるが、是非、他の地域でうまく成果が上がっているものは、制度設計に入れるべき。例えば、学校の断熱ワークショップやPPA事業、企業の脱炭素経営の先進的なもの等、良い事例が

たくさんある。

それらは、悠長に調査をするというよりは、すでに成果が上がっているのだから、参考にしてすぐにでも取り組んでいき、町にしっかりと根付いていくことや、逆に町の中から先進的なものとして全国から注目される取組になるよう期待している。

(委員)

今のご指摘私も非常に賛同します。事務局は、学校の断熱ワークショップは、把握しているのか。

⇒ (事務局)

他地域での先進事例を勉強中である。他の事例で成果を上げているものを参考にスピード感を持ってやっていきたい。

(委員)

計画の周知にあたってのお願いですが、ワークショップやシンポジウムの際には、町民の方に分かりやすく、あまり意識が乖離しないような内容でお願いします。

理想は高くても、話す内容は泥くさくて良い。計画だけが動いていることにならないように。

⇒ (事務局)

分かりやすくします。プロモーション業務の中に啓発冊子の作成があるが、小学生のお子さんが見ても分かりやすい内容で作っていきたいと考えている。

(委員)

事業スケジュールの中にある人材づくりというのは、どのように進めるのか。

⇒ (事務局)

まず、事業者や農業者からヒアリングを通じて話しを聞いたり、ワークショップ等から、環境に関心を持って一緒に取り組んで行っていただける人材を見出ししていきたい。時間のかかることだと思うので、今年度だけではなく引き続いてやっていきたい。

(委員)

重点事業と書いていない、太陽光発電設備等や次世代自動車の導入促進等は、次年度以降の事業ということか。

⇒ (事務局)

1番から5番まで記載している中で、優先順位をつけ1から順に進めていく。4番5番は時期をずらしてやっていく予定。

付け加えて、太陽光発電設備については、久御山中学校の体育館が避難所になっているので、太陽光発電を導入したいと考えている。全世代・全員活躍まちづくりセンターの駐車場にソーラーカーポートを導入する予定で、建物全体はnearlyZEBを目指しており、来年春には着工したい。

EV自動車については、現在2台導入しており、順次公用車の更新に合わせて導入していきたい。合わせて、充電設備も庁舎駐車場に設置が必要と思っている。

5番の地域脱炭素化促進区域の検討では、公共施設は中学校の体育館やまちづくりセンター等順次取り組んでいく。また、久御山高校周辺のみなくるタウ

ンで約 40 ヘクタールの新たなまちづくりを進めており、第 1 期・第 2 期産業ゾーンと住宅促進ゾーンを設けている。来年度には第 1 期整備地区の土地区画整理組合設立予定で、大林組が中心にやっていく。第 2 期は竹中土木に決まったので、進んでいく予定。

その後、地域を牽引する企業誘致のため、商工会長にも委員に参画していただき、地域全体の経済効果が高まることと、脱炭素経営に取り組んでいただく企業に、3 年間町の固定資産税を 1/2 に減免して、脱炭素化に事業費を使ってもらえたらと考えている。その条例のパブリックコメントを 10 月 25 日まで実施しているので、HP 等確認いただき、ご意見があればいただければと思う。

住宅整備も府内産木材の活用や太陽光発電、EV 自動車の充電設備を備える等の住宅団地を造成し、みなくるタウン全体で脱炭素に取り組んでいきたい。

(委員)

住宅は何戸ぐらいの予定か。

⇒ (事務局)

まず約 3 ヘクタール、約 80 戸の規模。そこからもう少し増やしていきたい。全体で約 1,000 人増を見込んでいる。

(委員)

ZEH や太陽光発電だけではなく、通風や植栽による日除け、エリア自体を環境強制的に作る、濃密なコミュニティを作って取り組んでいく等の事例があるので、そういった事も取り入れてもらえれば。

(委員)

プロモーション業務には期待しているが、スタートアップシンポジウム等をするのであれば、何か一つでも全町あげて取り組むものを、その場で提案できれば興味のある人が参加しやすい。何か新しい事が始まるというイメージを持ちやすいのでは。

例えば、みなくるタウンが出来れば、住民や事業所が増えるのであれば、また渋滞が増えるのかと思って聞いていた。

たとえ 30 分でも時差通勤に取り組めば、渋滞緩和や CO2 削減に繋がるでしょうし、生活の質を高めていると実感を得やすいのでは。

⇒ (事務局)

全町あげての何か提案することは、非常に参考になるご意見で、今後検討していきたい。

みなくるタウンには大きな都市計画道路の計画もあり、交通渋滞は生活環境に関わる事なので皆さん関心があると思いますので、そういったことも考えていきたい。

(委員)

庁舎に充電設備を設置するとのことで、例えば府道宇治淀線に面したところにも、駐車場があると思うが、そちらを EV 自動車専用駐車場として、一般の方が充電スタンドを探し回らなくても使えるように、使いやすい場所に設置してはどうか。

⇒ (事務局)

実現できれば、理想的なご意見だと思います。今後の取組において参考にさ

せていただきます。

(委員)

町民にどのように周知するかがとても大事だと思う。この会議の場やワークショップ等も、たくさんの住民の一部なので、周りにも環境問題に取り組んでいる友達等はなかなかいない。

今、中央公園のリニューアル検討に参加しており、どうしたら人が集まるか社会実験をしているところ。

11月3日にまちの学校というイベントを開催するが、イベントを開催して終わりではなく、普段から利用してもらえるために検討しており、今回のテーマは福祉関係で、高齢者や障害者や小さい子ども等関係なく、すべての人が平等に過ごせるようにという趣旨で開催する。

環境関係も、そのような人が集まる場所で発信していけばアピールできるのでは。

SDGsという言葉もよく出るが、実際何をしたら良いか、したらどうなるのかがよくわからない。調べてみると、知らないうちに環境の取組をやっていた事に気づく点もあった。一般の方はまだまだわからないと思うので、アプリを使ってポイントを貯めるとか、ゲーム式なものを仕掛けていったら、皆さん環境に対して気持ちが動いていくと感じた。

⇒(事務局)

いかにこの計画を周知していくかは大事な事だと認識しており、概要版を配って終わりではなく、ワークショップ等の開催と合わせて、我々がイベントに出向いて住民の声を吸い上げる等もやっていく。

また、簡単にできる省エネのポイント等、住民にとって身近な話題も広報等で周知していく。

(委員)

様々な機会に住民にいかに分かりやすく発信するかが大事。このような計画はだいたい一人歩きして、住民がついてこない事が今までのパターン。そうならないように、あらゆる機会に周知していくことが必要。

農業委員会でも事務局と協議しながら、周知する機会を設けても良いのかと感じた。農協の関係の会議でも機会があれば周知したい。

次第3 協議事項

(2) 答申内容について【資料4】

○説明概要 事務局から説明

(資料4) 本日の環境審議会における論点ペーパーに基づき、論点を説明。

令和5年4月25日に開催の第1回環境審議会において、久御山町長から環境審議会長への諮問事項を説明。そのうえで、今回、計画策定に係る答申事項(案)について、ご協議いただきたい。

◆主な意見・質疑応答

(委員)

3段落目の、また、本計画の推進にあたっては、住民・事業者・行政が共通理解と行動変容のもと、協働・連携し取り組むところを、ちょっと何か改善を。

⇒（事務局）

3者が計画の趣旨を理解し、計画達成に向け行動を変えていくという意味。

（委員）

どちらが先かですが、協働・連携して取り組んだ結果、行動が変わるのでは。

（委員）

脱炭素社会を形成していこうとするなら、これまでの暮らしぶりではだめですと住民の方へ行動変容を求めていかなければならない。より強く行動変容を求めていくために、住民・事業者・行政が協働・連携し共通理解のもと行動変容に取り組むとしてはどうか。

⇒（事務局）

行動変容が一番重要ではないかというご意見を受け、そのように修正したいと考えます。

次第5 その他

○説明概要 事務局から説明

本日いただきましたご意見を基に、会長と職務代理者と最終調整させていただき、町長へ答申する予定としている。

（委員）

この計画の冊子は住民にお配りするのですか。

⇒（事務局）

概要版を全戸配布します。

（委員）

なるべく簡単に分かりやすい文言にして、難しい文言を使わず、横文字は出来るだけ使わないようにしていただければと思います。

次第6 閉会

◆委員意見ポイント

- 再生可能エネルギー・新エネルギーとあるが、他では再生可能エネルギー、自然エネルギーと記載されており、経済産業省は以前には違う意味で新エネルギーと使っていたこともあり、記載を統一したらどうか。
- 気候危機を含めて、多くが危機的状況にあるので、本来ならばもっとやるべき事はたくさんある。例えば、学校の断熱ワークショップやPPA事業、企業の脱炭素経営の先進的なもの等、良い事例がたくさんある。
- ワークショップやシンポジウムの際には、町民の方に分かりやすく、あまり意識が乖離しないような内容をお願いします。
- ZEHや太陽光発電だけではなく、通風や植栽による日除け、エリア自体を環境強制的に作る、濃密なコミュニティを作って取り組んでいく等の事例があるので、そういった事も取り入れてもらえれば。
- プロモーション業務には期待しているが、スタートアップシンポジウム等をするのであれば、何か一つでも全町あげて取り組むものを、その場で提案で

できれば興味のある人が参加しやすい。何か新しい事が始まるというイメージを持ちやすいのでは。

- 庁舎に充電設備を設置するとのことで、例えば府道宇治淀線に面したところにも、駐車場があると思うが、そちらをEV自動車専用駐車場として、一般の方が充電スタンドを探し回らなくても使えるように、使いやすい場所に設置してはどうか。
- SDGsという言葉もよく出るが、実際何をしたら良いか、したらどうなるのかがよくわからない。一般の方はまだまだわからないと思うので、アプリを使ってポイントを貯めるとか、ゲーム式なものを仕掛けていったら、皆さん環境に対して気持ちが動いていくと感じた。
- 様々な機会に住民にいかに分かりやすく発信するかが大事。このような計画はだいたい一人歩きして、住民がついてこない事が今までのパターン。そうならないように、あらゆる機会に周知していくことが必要。
- 脱炭素社会を形成していこうとするなら、これまでの暮らしぶりではだめですと住民の方に行動変容を求めていかなければならない。より強く行動変容を求めていくために、住民・事業者・行政が協働・連携し共通理解のもと行動変容に取り組むとしてはどうか。